厚生連医誌　第26巻　1号　82～84　2017

短　　報

緩和ケアチームによる
嚥下機能が低下しても安全に摂取できるかき氷の検討

魚沼病院、栄養科；管理栄養士

近藤（こんどう）まなみ

長岡中央綜合病院では緩和ケアチームによる癌患者への心身もサポートが行われており、構成メンバーとして管理栄養士も緩和ケアに参加している。緩和ケアでの栄養サポートは、積極的な栄養補給よりも生活の質の向上や症状緩和に重点を置くことが特徴であるため、食欲不振等から経口摂取が困難となった患者の食事の個別対応をすることが多い。

今回は緩和ケアチーム介入中の肺癌末期で嚥下障害を有する患者から、かき氷を食べたいと要望があったので、その取り組みについて報告する。

キーワード：緩和ケア、ターミナル、癌、嚥下障害、かき氷

緩和ケアチームの体制

医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、理学療法士、医療ソーシャルワーカー、管理栄養士で構成されている。会議は月１度開催され、介入状況の報告や勉強会が行われている。また、毎週月曜日には回診が行われており、薬剤などの検討が行われている。

検　　討

かき氷に近い見た目にこだわって検討した結果、下記の２つの方法を試すことにした。

① 寒天及びゼラチン

水で溶かした寒天及びゼリーを冷凍し、かき氷機で細かく粉砕した。言語聴覚士からは、口腔内でばらけ、まとまりが一切なく、誤嚥リスクが高いとの評価だった。

② トロミ剤

トロミ剤を混ぜた水を冷凍し、かき氷機で細かく粉砕した。口腔内の温度により、氷が溶けてもトロミをつけた水に戻るだけで、離水するこがなく、また、口腔内でばらけることがなかった。言語聴覚士による評価でも嚥下機能が低下した患者でも安全に摂取することが可能とのことだった。また、普通のかき氷に比べ、溶ける時間を要するため、嚥下障害を有する患者の摂取に適していると考えた。

ま　と　め

要望があった癌患者は、トロミ水を凍らせたかき氷を食べる前に亡くなってしまったため、緩和ケアチーム介入中の別の癌患者２名に摂取してもらった（嚥下障害は無し）。トロッとした舌触りが少し気になるが、気に障る程ではなく、口腔内がさっぱりして美味しかったと好評を得ることができた。現在まで、緩和ケアチーム介入中で、嚥下障害を有する患者からかき氷を食べたいという要望がなく、嚥下機能が低下した患者については未だ摂取した経験がないため、今後の課題である。

緩和ケアの栄養サポートは疾患の進行状態や、全身症状によって個々に異なる。経口摂取を継続することは、生活の質の維持または向上に大きく影響するため、その時々の病態や症状に対応していくことが求められている。食べるという行為は、私たちが生きるための基本であり、楽しみや喜びでもある。患者や家族の食への想いに寄り添い、最期まで食べる楽しみや喜びを提供していきたい。

英　文　抄　録

Brief report

The development of easily swallowed chipped ice for patients with dysphagia by dietitians as a member of palliative care team

Uouma Hospital, Department of nutrition ; registered dietitian
Manami Kondo

The dietitians have intervened to the palliative care of cancerous patients as a member of the team and helped to improve their quality of life and relief of suffering rather than a one-way active supplementation. In this report we reviewed the chipped ice for a lung-cancer patient with dysphagia.

Key words : palliative care for cancer patients in terminal stage, dysphagia, chipped ice, quality of life, relief of suffering, team medicine

図１．寒天を凍らせた氷
かき氷機で削っても繊維質が残り､口腔内でばらけてしまう。

図２．トロミ水を凍らせた氷
離水することがなく、口腔内でばらけることもないため、口腔内残渣がなかった。

図３．トロミ水を凍らせた氷
フワフワした氷で、見た目は水道水を凍らせた氷と変わらなかった。

図４．水道水を凍らせた氷に粉砕後シロップをかけ60分経過
７割以上の氷が溶解し、ほぼ水分となっていた。

図５．トロミ水を凍らせた氷に粉砕後シロップをかけ60分経過
６割程度の氷がまだ残っており、溶解しても離水を起こしていない

（2016／12／26受付）